

「県道太田桐生線バイパス」の整備促進について（継続）

北関東自動車道は、平成23年3月19日の全面開通以来、放射状に広がる関東地方の高速自動車道同士を結節させるという役割を十分に果たし、地域経済の発展、観光ルートの形成、空港利用の促進、港湾へのアクセス向上による物流効率の上昇など、様々な効果をもたらしてくれているところであります。

群馬県においては、桐生市広沢町の松原橋交差点付近の国道50号を起点として、太田強戸スマートICへ直結するアクセス道整備が、群馬県の社会資本整備計画「はばたけ群馬・県土整備プラン」に盛り込まれ、また、桐生市においては、平成30年3月改訂の「桐生市新生総合計画」に「太田スマートICへアクセスする道路の整備促進を図る」の一文が盛り込まれており、現行の「桐生市第六次総合計画」にも引き継がれております。

つきましては、桐生市民の利便性の更なる向上、そして太田市との都市間連携の強化につながる幹線道路「県道太田桐生線バイパス」の整備促進、早期実現について特段のご配慮をいただきたく、強く要望いたします。

桐生市からの回答

北関東自動車道を利用した首都圏や沿線地域との広域的な連携の強化が、桐生市の経済活動や地域産業の振興、市民生活の利便性の向上、観光振興を推進するためにも不可欠であると認識しております。

平成30年7月に供用が開始された太田強戸スマートインターチェンジへのアクセス道路となる県道太田桐生線バイパス整備は、高速道路を活用した広域的な地域間連携の強化、本市の産業・経済の活性化や観光の振興、人口減少対策にもつながるため、群馬県をはじめとする関係機関と連携し、整備が促進されるよう努めているところであります。

しかしながら、気象災害の頻発化・激甚化している近年の状況を踏まえ、防災・減災対策をより一層加速させる必要から、群馬県では「はばたけ群馬・県土整備プラン2018-2027」の見直しを行い、「ぐんま・県土整備プラン2020」を令和2年12月に策定し、本路線の位置づけは、「令和9年度までに完成を目指す事業」から、着手時期が明示されない「着手に向けて検討する事業」に変更となりました。

このような状況ではありますが、本路線の早期着手が実現するよう、群馬県をはじめ関係機関へも強く働き掛けをしております。

[回答担当] 都市整備部都市計画課計画係